

鉾子支部臨時大会を成功させよう

日刊 動労千葉

81.6.20
No.770

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六(公衆)〇四七二(22)七二〇七

支部執行部方針にもとづき、今こそ動労千葉に結集して、二二〇〇組合員と共に進もう

鉾子支部全組合員の皆さん。いよいよ二年有余にわたるブランクを克服して、鉾子支部の組織的方向を決定する時が来ました。動労千葉は、この間一貫して鉾子支部全体の利益を守る最良の道が動労千葉に結集することであると心から訴えてきました。しかし、昨年末の「動労『本部』」としての業務再開決定は、国労へ十二名が脱退という不幸な結果をまねき、職場に大きな混乱と感情的対立を生み出してしまいました。このような今日までのにがい経験を経て、去る六月十五日開催された支部執行委員会は、「鉾子支部は、動労千葉に結集する」という組織方針を可決決定しました。

鉾子支部全組合員の皆さん。

今や鉾子支部全組合員の進むべき最良の道は、執行部方針を支持して、動労千葉に結集することです。六月二〇日の臨時支部大会を成功させ、動労千葉に結集しよう。

動労「本部」に未来はない！

動労「本部」は、去る一月三十日「再建千葉地本」を組織人員八〇名そこそこでデッチ上げました。

しかし、未だに当局との団体交渉もまともに出ず、協約・協定が「山下庄一郎」の名前ではなく、全て「千葉事務所代表・緒方某」の名前で結んでいる状態です。

「再建千葉地本」などとデッチ上げてはみたくの山下・土屋らは、全くのカザリものによらず、実際には、「本部」革マル分子によって「千葉地本」が引き廻わされているのが実態です。

しかも、八〇名そこそこの「本部」派組合員のうち、三分の一以上の二八名が他局からの短期転勤者であり、一〜二年のうちにも帰任してしまい、残りの組合員も定年近い人達であり、さらに、新規採用者の加入はゼロであり、期待した仙台、盛岡からの帰任者も、仙台からの帰任者四四名が一気に二八名も動労千葉に加入し、動労「本部」に残るものは四名足らずという惨状です。

動労「千葉地本」のジリ貧と先きほそりは、もはや明らかであり、彼らに未来のないことは明らかです。

わが動労千葉の着実な前進と勝利によっていよいよ動労「本部」反動分子は追いつめられ、ついに、自らの反労働者性をむきだしにして、コロビ屋Ⅱ革マル分子嶋田誠をつかって「暴行事件」をデッチ上げ、権力にタレコミ告訴するという暴挙に出ています。

まさに、権力一体となった動労千葉破壊の攻撃に出てきているのです。

しかも「本部」反動分子は、乗務員運用合理化に卒先協力し、同じ組合に属する仲間の利益さえ当局に売り渡してでも東京三局のみの利益を追求するという全く労働組合にあるまじき「運動」を行なっているのです。

われわれは、このような「本部」反動分子の出先機関にすぎない動労「千葉地本」Ⅱ三信ビルを絶対に許すことは出来ません。

執行部方針を支持して、臨時支部大会を成功させよう

六月二〇日の臨時支部大会は、「本部」反動分子の手先きとなって、鉾子支部の分裂と対立と混乱を拡大するのか。それとも執行部方針を全体で支持して、鉾子支部の大同団結をかちとるのか。又は、無責任にも仲間を裏切り国労に脱退していくのか。

鉾子支部の将来を決定する重大なときをむかえています。

支部執行委員会は、「動労千葉に結集する」方針を賛成七、反対()、保留三で可決決定しましたが、この決定こそ、二年有余にわたるブランクを真に克服し、鉾子支部が一つにまとまり、支部全体の利益を守ることの出来る最後の道であると考えます。

鉾子支部全組合員の皆さん。

二年有余にわたる様々な経験を無駄にしないためにも、この間の一切のいきがかりを捨てて、今一度初心にたちかえり、支部執行部を先頭に動労千葉に結集し、共に闘おうではありませんか。

動労千葉一三〇〇組合員は、みなさんが動労千葉に結集されんことを心からまち望んでいます。